

② OJTの充実等による組織力強化や教職員の資質向上

- 11 学校（教員）力の把握に基づいたOJT、校内研修の推進
光市立大和中学校 教頭 城戸邦之（H23年度）
教頭 白井栄作（H24年度）
- 12 OJTによる分掌業務及び学校の特色づくりの継承
山口県立徳山高等学校 鹿野分校 教頭 定行秀夫（H23年度）
教頭 西村 悟（H24年度）
- 13 人材育成グループ「あおやまジュニア」による若手教員の育成
下関市立勝山小学校 教頭 大久保敏昭
- 14 OJT－「いつ」「どこで」「だれが」リーダーとなるか
岩国市立川上小学校 教頭 藤中由美子
- 15 学校の重点目標達成に向けた組織的な取組の中でのOJT
柳井市立日積小学校 教頭 金田繁満
- 16 学校行事に協働して取り組む中でOJTを実践
岩国市立祖生西小学校 教頭 角井和徳
- 17 学力向上に向けて組織的に取り組む中でOJTを実践
岩国市立米川小学校 教頭 有福 敏
- 18 キャリアプランの実践を通じた学校の総合力の向上
山口県立新南陽高等学校 教頭 野村泰彦
- 19 校内ペアOJTの推進
長門市立日置小学校 教頭 宮内辰夫
- 20 OJTを効果的に推進する教職員集団づくり
宇部市立東岐波中学校 教頭 篠原正幸
- 21 「きずなアンケート」を活用したOJTの実践
周南市立秋月中学校 教頭 濱崎幸貴
- 22 先輩教員から学ぶ“ちょこっと塾”“ネットワークミーティング”
宇部市立藤山小学校 教頭 河村浩一郎
- 23 自己目標検討用シートで自己目標の充実
下関市立誠意小学校 教頭 伊村克彦
- 24 教頭通信を活用した組織力に資する取組
山陽小野田市立厚狭中学校 教頭 世木 尚



11 学校(教員)力の把握に基づいたOJT、校内研修の推進

光市立大和中学校

取組の趣旨

- 若手だけでなく、教職経験をもつ中堅やベテランの教員でも、経験がない校務分掌や苦手とする職務があるため、分野ごとに経験豊富な者、得意とする者を明確に示すことにより、知識や経験を円滑に伝達し、互いに高め合い、支え合う教員集団をつくる。
- 校務分掌上の職務内容やそれに伴う実務、最新の指導技術、生徒指導力など、現在の教員に求められる知識や指導力について、個々の教員の得意分野と苦手分野を把握するとともに、一覧のグラフにして示すことで学校組織全体の強みと弱みをつかみ、より有効かつ必要な研修を推進する。

具体的取組

- 1 教頭、教務・生徒指導・研修の各主任で協議し、校務分掌を遂行する上で必要な実務、現在の教員に求められる知識や指導力は何かを考え、アンケートを作成し、全教員に実施した。
- 2 各項目ごとに、A「経験があり今現在、任せられても一人でできる(自信がある)」、B「経験があり、だいたいの内容はわかる(たぶんやれると思う)」、C「経験はあるが、得意ではない(あまり自信がない)」、D「経験がなく、わからない(今現在、その職務を任せられたら困る)」の4つの選択肢でアンケートに回答を求めた。
- 3 アンケート結果を集計したものをグラフ化して、本校の長所(強み=A, Bが多い項目)と短所(弱み=C, Dが多い項目)を視覚的に確認し、短所の強化を図る方策について協議した。その際、各教員の主観に基づくアンケートへの回答であることから、B・Cは参考程度とし、A・Dの回答を重視して検討した。

【アンケート結果を受けての対応】

- ① アンケート結果のグラフを全員に配布し、本校の現状について共通理解を図った。その際、各項目にAと回答した者の名前については公表し、その職務についてわからないときは校内の誰に聞けば教えてもらえるのかを明確にした。
- ② A・Bの回答が極端に少ない項目について、研修主任や分掌担当者と協議して、外部講師を招聘するなどして早急に校内研修を実施することとした。
- ③ 次年度の校務分掌を配置する際に、担当を大幅に入れ替え、できるだけC・Dと回答した分掌を担当できるように提案した。その際、その分掌についてA・Bと回答した教員を補助につけるなどして、いつでもアドバイスがもらえるような体制を考えた。

取組の成果

- 本校の力を分析すると、A・Bと回答した教員が極端に少ない分掌(ホームページ管理、特別支援教育、キャリア教育、転出入事務等)があり、人事異動の結果によっては職務が滞るおそれがあることから、早速、各主任を中心に必要な研修会を実施することができた。
- 校務分掌の割り当てや行事の担当を考える際に、A・Bの教員とC・Dの教員でチームを組むなど配置の工夫をすることができた。C・Dの教員が未経験の分掌や苦手な職務を担当する割合を増やすことで、各教員にとって経験の幅を広げることにつながるとともに、組織としても新たな視点からの発想が生まれ、より効率的な方法の提案につながったりした。それとともに、未経験の者の相談に乗りながら、対話の中でA・Bの教員からC・Dの教員への知識や経験の伝達が円滑に行われ、教員個々の力量の伸長と学校組織の活性化を図ることができた。

← 強										弱 →																													
A					B					C					D																								
分野																				内容																			
環境・総務・事務	施設管理、安全点検、補修																																						
	清掃計画、用具管理、指導																																						
	災害安全、消防計画、避難訓練																																						
	PTA関係																																						
事務	公文書の管理																																						
	会計管理(学年会計含む)																																						
	環境緑化																																						
	サービス(休暇、出張他)																																						
教務	福利厚生																																						
	教育課程																																						
	新学習指導要領(自分の教科)																																						
	新学習指導要領(総則、道徳、特活、総合)																																						
	学習指導案の作成																																						
	少人数指導、TTによる指導																																						
	教科書給付																																						
	日課編成																																						
	出席統計																																						
	転出入																																						
	指導要録																																						
	研修	研修計画、研修会の企画運営																																					
キャリア教育																																							
従来の進路指導																																							
道徳教育、道徳の指導																																							
学級活動の指導																																							
総合的な学習の時間の指導																																							
特別支援教育																																							
福祉教育																																							
人権教育																																							
国際理解教育																																							
環境教育																																							
学習指導		情報教育 (ICT、電子黒板を含む)、情報モラル																																					
	性教育																																						
	読書指導																																						
	地域、伝統、文化の教育																																						
	人間関係づくり (AFPYを含む)																																						
	授業をデザインし、指導案を作成する																																						
	指導計画に沿って授業を展開し、進める																																						
	生徒の興味を引き出し、主体的な学習を促す																																						
	学習状況を適切に評価し、価値づける																																						
	自分の授業を振り返り、改善する																																						
	生徒指導	生徒指導計画、校外の生活指導																																					
		集団行動、全体指導																																					
生徒会活動																																							

教員の氏名

分野	アンケート項目
環境 総務 事務	○施設管理、安全点検、補修 ○清掃計画、用具管理、指導 ○災害安全、消防計画、避難訓練 ○PTA 関係 ○公文書の管理 ○会計管理 (学年会計含む) ○環境緑化 ○サービス(休暇、出張他) ○福利厚生
教務	○教育課程 ○新学習指導要領(自分の教科) ○新学習指導要領(総則、道徳、特活、総合) ○学習指導案の作成 ○少人数指導、TTによる指導 ○教科書給付 ○日課編成 ○出席統計 ○転出入 ○指導要録
研修	○研修計画、研修会の企画運営 ○キャリア教育 ○従来の進路指導 ○道徳教育、道徳の指導 ○学級活動の指導 ○総合的な学習の時間の指導 ○特別支援教育 ○福祉教育 ○人権教育 ○国際理解教育 ○環境教育 ○情報教育 (ICT、電子黒板を含む)、情報モラル ○性教育 ○読書指導 ○地域、伝統、文化の教育 ○人間関係づくり (AFPYを含む)
学習指導	○授業をデザインし、指導案を作成する ○指導計画に沿って授業を展開し、進める ○生徒の 興味を引き出し、主体的な学習を促す ○学習状況を適切に評価し、価値づける ○自分の授業 を振り返り、改善する
生徒指導	○生徒指導計画、校外の生活指導 ○集団行動、全体指導 ○生徒会活動 ○委員会活動 ○学校行事の企画運営 ○部活動指導 ○ボランティア活動 ○交通安全指導 ○防犯指導 ○教育相談 ○SC、関係機関等との連携 ○不適応(不登校)生徒の対応 ○いじめ対応
実務 その他	○掲示物の作成、管理 ○保護者宛たより等の作成 ○学級経営 ○給食指導 ○通知表作成 ○保護者懇談 ○HP の作成、管理 ○公文書の作成、提出 ○外部との電話対応 ○クレーム等 対応 ○校務の企画・立案・提案 ○職場でのプレゼンテーション

取組の趣旨

- 校内の各分掌の特徴や、人員構成等の運営の状況・課題を踏まえ、教職員のキャリアや適性に合った配置を行い、効果的なOJTによる組織強化と教職員の資質能力の向上を図る。
- 業務マニュアル（業務記録）の作成及びこれを活用した校内研修の実施等により、業務内容や進捗状況の共有を図るとともに、人事異動時の業務の円滑な引き継ぎを行う。

具体的取組

(1) 各分掌業務におけるOJTと業務継承

- ベテラン（45歳以上）○中堅（30-45歳）◎（30歳以下）★新任（年）☆新着任
- 現任校経験10年程度 □現任校経験5年以内 ◇教育相談・特別支援コーディネーター

	生活安全部	教務部	進路指導部
特徴	生徒一人ひとりや周りの状況によって対応が大きく変わる分野	前年度までの技能や知識でほぼ対応できる分野	仕事を分割化して効率化が可能
人員構成	部長●(■)	部長○(■)	部長○(☆)
	◇(●□) ★(□)◎(□)	★(3) ○(□)	○(□)=★(5) ○(■)3年担任
課題	大きな人事異動がなく、経験を積んだメンバーによって、安定して業務が遂行されている。	経験豊富な部長のもと教育課程等特色ある分校教育の継承を確実に進めている。	前主任が転出⇒新着任が主任 経験豊富なサブリーダーが支えて業務継承を図っている。
	・幅広い業務への対応が必要 ・特別支援教育等で他分掌等との連携を一層進める必要 ⇒(3)	・業務の中核となる部長及びサブリーダー等の異動に備えた業務継承を着実に進めていく必要 ⇒(3)	・サブリーダーの異動に備え、新リーダーの業務把握の深化と力量向上が急務 ・他分掌との連携が必要 ⇒(3)
少人数体制での兼務業務の拡大が進むなど個々の教員の力量向上が求められている。少数の教員の異動でも業務の継承に影響（支障）大である。分掌を越えた連携拡大が必要であり、年齢・経験・分掌等の壁を越えたOJTが求められている。			

- ◆分掌を越えて、業務情報・技能の共有（相互の業務理解・支援）
- ◆連絡調整会議（教頭・三部長・教育相談担当）による方針共有

(2) 特別支援教育の充実（*分校教育の特色）

- ◆教育相談係・特別支援校内コーディネーターを中心に以下の取り組みを実践
 - ・教職員全体へのOJT及び校内委員会（各学期2回）⇒個別の指導計画の作成と内容の検討
 - ・中学校・大学との連携、保護者との面談等＝複数教員による実践的な対応（OJT）
 - ・職員会議・職員朝礼での情報交換・指導方針の共有・研修

(3) 業務理解の深化及び引継ぎの円滑化（⇒業務の効率化）

- ◆業務マニュアル（業務記録）の作成…事例（参考資料）をもとに校内研修
- ◆紙文書ファイル及び校内LAN内のフォルダ及びファイルの分類・整理

取組の成果

(1)・(2) について

生活安全部	教務部	進路指導部	特色づくり
部員全員に資質向上が図られた。生徒のリーダーシップを養成できた。	異動に対応し、部長・副部長を中心に、分掌を越えて、新着任者等へのOJT・業務継承を進めている。	主任転出による引継ぎの混乱を越えて、業務の継承や新しい視点からの業務の発展に努めている。	担当・SC・外部機関との連携や校内研修によって教員全体のレベルアップが進んでいる。

(3) について

- ◆研修等を通じて、業務継承や業務の効率化への意識が高まり、着実に業務記録の作成が進んでいる。
- ◆諸フォルダ及びファイルの分類・整理・更新が進み、業務の効率化に進展が見られる。
*「業務記録」と関係ファイルをリンクさせる工夫も生じている。

参考資料

業務記録の例(抜粋)

校内研修の資料としても活用

8月					
日	曜日	行事	一般	部活	備考
23	木	山口県シニアゴルフ選手権(宇部)	Sさん、SF保育園児用お土産準備お願い 始業式次第作成、配布 SF大玉空気入れ 体育館モップ掛け SF練習日程等教室掲示用配布 SF保護者向け案内文書配布 SF大玉・多人多脚パトン・ピブス確認 頭髪服装検査用紙配布 本校へ(業務連絡)	3年時間、ユニフォーム確認メール送信 西京用ユニフォーム準備 9月以降練習日程作成	
24	金	テニス春季地区大会(徳山) ホッケー新人大会(玖珂)	教務日誌作成	地区大会(玖珂) 地区大会参加申込書提出 2年、ゴルフ部入部届提出確認 H先生、9月玖珂使用日確認	
25	土				
26	日				
27	月	始業式、大掃除、課題考査 進路希望調査(1・2年)	本日SF練習時間、終了時間確認 アルバイト報告書提出連絡 体育館器具運び入れ SF玉入れ用玉日干し SF生徒用プログラム印刷 SF実行委員会 SF生徒A、実行委員長挨拶考査 SF選手宣誓、準備・整理運動等確認 SF生徒用プログラム実行委員配布 SF本番競技説明文作成用紙渡す SF各種目練習ルール説明お願い 対戦順等用紙回収 S先生、昨年度英検確認	2年、ゴルフ部入部届提出確認	
28	火	SF練習	Yさん、体育館横トイレ水漏れ確認 タオル落し物確認 SHR SF練習、体育にカウント連絡 来賓A・来賓Bさん、SF挨拶確認TEL SF長縄借用 バド、ホワイトボード作成(シングルス) NA先生、SF弁当確認 T君、SF挨拶再提出	T先生、ホッケー部員ゴルフ部練習相談 2年、ゴルフ部入部届提出確認 部室鍵注意	
29	水		T先生、生徒AにTEL連絡 SF生徒用プログラム配布(名前記入注意) SFプログラム(生徒用も)教員配布 SHR 席替え 部活特勤提出 1年保健授業準備 SF備品準備 ムカデ用作成 保健授業教材の準備		事務にも配布
30	木		職朝、SF予行日程教室掲示用配布 職朝、SF出張伺提出連絡 職朝、SF前日生徒配車(各団)確認連絡 Sさん、SF保育園児おやつ代確認 N先生、SF個別リレー備品代支払い SF出張伺 T先生、SF応援異装許可確認 SF備品最終確認 ムカデ用作成 SF閉会式練習(SF実行委員会+団長)放課後 SF反省・アンケート用紙教員配布		オーダー表、各団に渡したほうがよい プログラム20部追加
31	金	SF予行	頭髪服装再検査者確認 SF反省・アンケート用紙事務配布 やまなみ荘出張伺 やまなみ荘事前連絡 B-1(写真撮影)事前確認 事務Sさん、SF来賓出席者確認お願い SF備品最終確認		身体能力テスト実施データ提出締切 案内状送付時来賓名必ず確認(紹介のため) 受付・案内はS・Kさん、対応は教頭

<体育大会>実施に向けた業務(文字色■紫色■で表示)を記録
SF=スポーツフェスティバル=体育大会
※鹿野総合体育館で実施
◆教職員・生徒名はイニシャルに変更
◆直前9日間のみを抜粋

Excelで作成
(・学期毎に別シート・シート内で月を分割)
◆項目は少なくし、一覧性を重視
◆複数業務の区別は色分けで対応

◆いつ、どこで、誰が、なにをするか?が明確になるように記録
※シンプルな図より、複雑に見えても、実務上は役立つ
◆誰と連絡・連携するのかも重要

◆次年度(次回)に向けた反省・気づきを記入し、後継者への引き継ぎとする!!!

9月1日(土)SF(スポーツフェスティバル=体育大会)開催

- ◆Excelのハイパーリンク機能を活用して、関係文書とリンクさせる。
- ◆連携先(電話番号・メールアドレス等)を記入する。(連絡先一覧とのリンクを設定)

13 人材育成グループ「あおやまジュニア会」による 若手教員の育成

下関市立勝山小学校

取組の趣旨

- 若手教員の人材育成グループ「あおやまジュニア会」の研修を中核に据えた OJT を恒常的に仕組む。そして、「若い先生から進んでベテランやミドルの先生方に質問する、教えを請う」という学校の文化性を築くことを通して、若手教員のみならず、すべての教職員の資質能力の向上と組織の活性化を図り、学校の総合力を向上させる。
- ミドルの教員を学年や校務分掌の主任に位置づけ、それをバックアップするベテラン教員と若手教員を配置して、異なる年齢構成のチームを組み、学校の活性化を図る。また、生徒指導や特別支援教育の分野においては、事例に応じてタスクフォース型のチーム体制を組むようにして、その時々課題や事態に機動力豊かな対応を実現する。

具体的取組

- 月1回、1時間以内の時間枠を基本とし、校長室で座談会形式の研修を実施した。
- 研修テーマには、「自己目標と達成のための手立ての設定」、「教材研究の方法」、「学級事務におけるラベルソフトの活用」、「支援の必要な子どもへのかかわり方」、「今学期の成果と来学期への課題」等々を設定した。
- 教材研究の方法や ICT の活用等、研修のテーマによっては、ミドルやベテランの教員を招き、講師を務めたり、実技を示範したり、参考図書を紹介したりした。
- 特別な支援が必要な子どもへのかかわり方や学級経営上の悩みなど、課題を共有して相談し合い、実践事例を紹介したり助言を受けたりすることによって、解決方法を探るのみならず、情緒面におけるケアやバックアップを図った。
- 学期末などの機会には、成果や課題を共有し、次の学期に向けてのモチベーションを向上させることができるよう、それぞれが実践してきたことを報告しあった。
- 座談会形式の研修以外に、ベテラン教員の授業を参観したり、自分の授業を参観していただいたりして、実践的に授業研究を進めていった。
- 「あおやまジュニア会」を中心に、地域行事参加の企画や練習計画を立て、積極的に地域に出て行くようにした。

取組の成果

- 若手教員から、ミドルやベテラン教員に学級経営や教材研究について質問に行く、また、自主的にお願いして授業を参観してもらいアドバイスを受けるといった姿がよく見られるようになった。
- 若手教員が先輩教員にどんどん質問に行く姿に刺激を受け、ベテラン教員の中にも、得意分野をもつ教員に教えを請うという姿が見られるようになり、組織が活性化してきた。
- 生徒指導、特別支援教育の課題に関しても、一人で抱え込まず、報告・相談が積極的になされるようになった。事例に応じてタスクフォース型のチームを組み、知恵を絞り、作戦を立て、役割分担して対応するチーム支援体制が柔軟に組めるようになってきた。
- 地域行事に若手教員が積極的に参加するようになった。また、地域の文化祭では、「あおやまジュニア会」のメンバーが中心になって演技を披露し、地域の方から喝采を浴びるとともに、「勝山小の先生方は、よく地域に出てください」との好評価をいただいた。

参考資料

「あおやまジュニア会」の構成

- 「あおやまジュニア会」は、新規採用3年目までの教員5名を対象にして組織し、校長、教頭2名、教務主任がオブザーバーとして参加した。
- 会長は採用2年目の教員が務め、会の実施時期の調整やその月の研修テーマの設定等については、自分たちで行えるようにして、自主的な運営ができるようにした。



名称に込めた意義

「あおやまジュニア会」の命名には、以下のような意義を込めた。

- ・ 勝山地区のシンボル勝山三山の1つが「青山」である。この地を象徴する山のように『地域に根ざし、志を高くもち、大きく成長しよう』という願いを込めている。
- ・ 本校の学校教育目標は、「文化の花を咲かせ、平和の虹を架け、世界の空に巣立つ子どもの育成」である。これは、校歌に謳われている歌詞から構成している。その校歌の出だしは、「緑かがやく 青山に」である。『学校教育目標を我らの手で具現化しよう』という願いを込めている。
- ・ 運動場には、子どもたちに親しまれている築山「青山ジュニア」が建設されている。『子どもたちに慕われる教師になろう』、『あおやまジュニアから青山へ、本物の教師に成長しよう』との願いを込めている。

これまでの研修テーマや地域行事への参加(H24年度)

- 4月 「自己目標と達成のための手立ての設定」
- 5月 「学級事務におけるラベルソフトの活用」
ライオンズクラブ主催『筍掘り』への参加
少年相談員主催『イモの苗植え』への参加
- 6月 「授業研究後のジュニア会独自の研究協議
並びに、教材研究の方法について」
- 7月 「1学期の成果と2学期への課題」
連合自治会主催『勝山かっぱ祭り』への参加
- 9月 「支援の必要な子どもへのかかわり方」
- 10月 「文化産業祭出演の企画と練習」
- 11月 連合自治会主催『文化産業祭』への参加
少年相談員主催『イモの苗植え』への参加
「学級経営上の悩みについての相談会」
- 12月 「2学期の成果と3学期への課題」
- 1月 「ジュニア会のメンバーによる授業研究後の
ジュニア会独自の研究協議」
- 2月 「支援を要する子どもについての事例検討会」
- 3月 「本年度の成果と来年度への課題」



ベテラン教員に教えを請う若手教員



あおやまジュニア会による地域行事への参加

取組の趣旨

- 小規模校では、教員全員が校務分掌のリーダーとなって、互いの意欲向上と能力開発を図ることが可能である。そして、教員一人ひとりの資質能力の向上こそが、学校の総合力向上に大きな成果をもたらすと考える。
- 現在の学校が求められている2つの側面である「教育指導」と「学校の在り方」について、4つの力（学習指導力、生活指導力・キャリア教育力、地域・保護者・関係機関との連携力、学校運営力・組織への貢献力）の育成の観点から、「いつ」「どこで」「だれが」リーダーとなるかを明確にして、学校の総合力向上への取組を行う。

具体的取組

1 教育指導において学校が求められていること

- (1) **学習指導力向上**のために、研修主任がリーダーとなって、
 - ・研究協議の形式を毎回変える。課題と成果、繋がる研修の手立てを共有することで、チャレンジ精神を基盤とする共に育つ教師組織をつくる。
 - ・他校の研修に率先して参加・復命、外部講師の招聘等、外の風を受け入れる柔軟な教師組織をつくる。
- (2) **生活指導力・キャリア教育力向上**のために、生徒指導主任がリーダーとなって、
 - ・キャリア形成支援シート・生活アンケート・教育相談等の活用で、夢に向かう児童の意欲を喚起し、支援する教師組織をつくる。
 - ・はじめのある生活の指導と規範意識の育成に取り組むために、協働する教師組織をつくる。

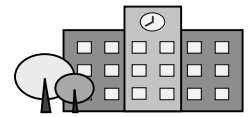
2 学校の在り方として求められていること

- (1) **地域・保護者・関係機関との連携力向上**のために、管理職・生徒指導主任がリーダーとなって、
 - ・地域指導者との熟議の時間を確保し、目的や手立てを共通理解する。
 - ・行事での成果を共有する機会を作り、地域指導者や保護者の自己実現に繋げる。
 - ・学校公開でのアンケートや外部評価の結果を有効活用する。
- (2) **学校運営力・組織への貢献力向上**のために、管理職・教務主任がリーダーとなって、
 - ・学校教育目標達成のために常に学校運営の見直しを行う。
 - ・教職員の自己評価結果を学校の総合力向上に活かす。

取組の成果

- 全教員がリーダーとなり、相互啓発に取り組んできた結果、リーダーを核に全員が役割を分担し、成果や課題を共有することができた。研修では、「川上小複式授業スタイル」の確立に向けて、「リーダー学習指導」を推進できた。生徒指導では、「夢に向かってたくましく生きる児童の育成」が進んでいる。学校の在り方としては、地域や保護者からの理解と連携が一層深められた。

学校の総合力の向上



意図して
組織的な学校運営を

管理職

リーダーシップ・協働
1人一役・1人一躍

学習指導力向上を

研修主任

教育指導

生活指導力・キャリア教育力向上を

生徒指導主任

チャレンジ目標の達成度は…

学力向上推進リーダーを招聘
「流れはシンプルに」「教師の出番は2つ」

リーダー学習
川上小複式授業スタイルの確立

課題の明確化と発問で多様な意見を

各種研修会への参加・復命

ふれあいで豊かな心育成

大切にしたいものはみんなの夢

キャリア形成

職場見学

規範意識

安心安全 学習習慣

意識して

リーダー・協働

学校評価・自己評価の活用を

地域・保護者・関係機関との連携を

管理職

「ワイガヤ」授業改善・生徒指導情報交換

学校の在り方

地域の協力を得て、授業時数の確保を…

教務主任

新学習指導要領を踏まえた教育内容の充実を

リーダー・協働

学校公開

盲導犬体験

地域ボランティア「お話の会」

考え・判断し・表現する力

地域の伝統・文化

餅つき体験

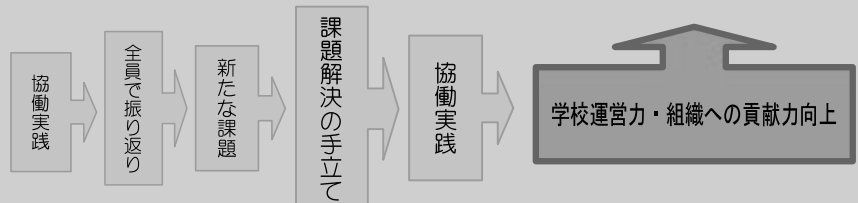
琴体験

注連縄づくり

組織全体を支える力

事務・養護・用務の役割分担と連携

学校運営力・組織への貢献力向上



15 学校の重点目標達成に向けた組織的な取組の中での OJT

柳井市立日積小学校

取組の趣旨

- 活力ある学校づくりのためには、教職員が主体となり、組織的な学校運営を推進し、教職員の資質能力の向上を図ることが求められている。
- 教職員は同じベクトルで協働して取り組むことにより成長する。そのためには、チームを意識して学校課題に協働して取り組むことが重要である。
- 具体的には、学校重点目標達成のために分掌を中心にチームを組み、目標のゴール(目標達成のための課題を解決すれば、どのように子どもの姿が変容しているか)を設定するなどして、1年間のPDCAサイクルを定着させて取り組む。その一連の流れの中で、OJTを推進し、教職員の資質能力の向上を図る。

具体的取組

- ① 学校重点目標達成のために、**分掌を中心としてチームを組み**、リーダーを決める。
 - ・教頭が一覧表を準備し、管理職が中心となりチームを決める。
- ② チームの話し合いの中で、**具体的な取組とゴール(児童の姿)を設定**する。
 - ・職員研修で話し合い、取組内容は、後日、教頭に知らせ取組表にする。
 - ・より具体的な取組にするために、可能な限りゴールを数値化をする。
- ③ 各チームの具体的な取組とゴールを、**全体の場で発表**し、協働実践のための理解を図る。
- ④ 学期末に達成状況の報告をする。取組表は学期ごとのステップが分かるように作成し、**1年間のPDCAサイクル**を定着させる。
- ⑤ **学期末には、報告会**を開き、達成状況を伝えるとともに、**教職員同士の相互評価**も実施し、次の改善策を設定する。
 - ・教頭が相互評価表を準備する。
- ⑥ 年度末に、各取組で、**児童がゴールの姿に近づいたか検証**し、その成果と課題を明らかにし、次の年度への取組につなげていく。

取組の成果

- ベテランと若手が課題解決のために切磋琢磨し補い合うことにより、**キャリアステージに応じた資質能力の向上**が図れた。
- 学校重点目標達成に向けて、全教職員が取り組むことにより、同僚意識が育ち、**他の課題に対しても同じベクトルで取り組もうとする機運**が高まった。

参考資料

学校重点目標の達成に向けた取組表・相互評価表の活用



3つのポイント

- ① 自分たちが創意工夫しながら進めます。
- ② 学期ごとに、報告会を実施し、成果と課題を明確にします。
- ③ 管理職への報告・連絡・相談もきちんとしています。

平成24年度 学校重点目標達成に向けて(取組表)

メンバー	重点目標	具体的な取組 (具体的な提案・共通実践)	達成状況の把握	1学期の達成状況	2学期の達成状況	3学期の達成状況	ゴール(児童の姿)
校長・教頭 めざす児童像 自らが考える子 思いやりのある子 実践する子	【主体的で表現力の豊かな児童を育成】 ① 児童がめあてを持って進んで学習に取り組み、自分の考えを進んで発表する ○教務 ○研修	①やまぐち学習支援プログラムの活用と学力向上プランに基づく実践により学力向上に努める ②学び合いの場のある授業を仕組む	①学期ごとに学力向上プランのPDCAの実施 ②学習支援プログラムの結果入力と分析を実施する。	①学期末評価問題を各学年実施し、2学期の学力向上プランに位置づけた。 ②授業中での学び合いの場面での研修をした。(できるところから、実践している)	①学期末評価問題を、2学期末までに実施し、入力、グラフ化した。結果の分析を年明けに実施し、学力向上プランに位置づける。 ②研究授業が全学年で終了し、一斉のグループ、ペア学習での学び合いも定着した。		○自分の学習課題を意図して日々の学習に取り組み、全学年の学期末評価レベルを、県平均以内にすることを旨とする。 ○授業中に友だちと学び合う活動を各クラス週1回以上設置しながら、自分の考えを進んで発表できる。
	【よさの認め合い】児童が他のよさに気づくことができるようにする ○生指 ○養護	①終礼で、情報交換(月末最終木曜日16:00～)の時に、全教職員から、児童のよい面も共通理解を図る。 ②にこにこボックスを活用して、「ありがとう」の内容を紹介し、次へつなげる。	①道徳、学活の時間に友だちのよさや自分のよさを見つめる場を設ける。(各学期に1回程度) ②一斉下校の時に、その都度、教師が知らせる。	①100%達成各学年、道徳、学活、国語の授業などで、自他の良さを見つめる場を設けている。 ②毎月1回紹介して、よさに目の向くコメントをしたことと、ありがとうの内容が増えてきた。	①100%達成した。「ほめ言葉のシャワー」など、様々な方法で取り組めた。 ②「いいところを見つけよう」の掲示物を作成したこと、書く児童数が増えた。		○うれしかったこと(ありがとう)や、すごいなと思ったことをにこにこボックスに書いたり、道徳・学活の時間に書いたりすることができる。
	【楽しみながら】 ①体力づくりをする ②読書活動をする ③美化活動をする ○体育 ○環境 ○図書	①ふれあいタイムでの活動(長縄・一輪車・チーム遊び)の継続的な実施 ②読書週間を設けて、目標を立てて本を読む ③クリーン週間を設けて、主体的に清掃に取り組む	①一輪車カード・記録カード等の利用や感想 ②読書カード等 ③クリーンカード等(ふり返りカード)	①6年生をリーダーとして、意欲的活動がみられた。運動会での一輪車発表で要なるリーダー性が期待できる。 ②③本をたくさん読んだ子・よく清掃をした子の表彰をした。個人目標を決めさせ取り組ませた。	①一輪車進級表での提示、一人一台での練習環境により、取り組みの活性化がみられた。 ②おすすめの本の紹介をしているが、児童の意欲につながる数値化を検討する。 ③清掃は、名人賞の表彰を数値化して、児童の意欲づけを図る。		○児童が自ら進んで体力づくり、読書活動美化活動に取り組もうとする。 ①一輪車カード2級達成率80%以上 ②③自己目標達成率80%以上

学校教育目標 重点目標 教職員相互評価表

○をつけてください

氏名()

※学校全体としての取組になっているか

重点目標【主体的で表現力の豊かな児童を育成】 ① 児童がめあてを持って進んで学習に取り組み、自分の考えを進んで発表する

取組	よくできた	ふつう	要努力
成果			
アドバイス			



相互評価により、様々な角度から取組を深めることができます

自分たちの創意と工夫で学校課題を解決する教職員組織

取組の趣旨

- 全教員が取り組み、学校全体を動かす学校行事等は、組織的な行事運営の方法等を学ぶことができる場となるとともに、多くの教員が分担して取り組むことから行事運営の中心となる教員だけでなく、相互に学びあう機会となり、OJTの場として有効である。
- 「防災教育」を意図した行事（気仙沼市立大島小学校との交流）の実施に当たり、教職員全員がOJTを意識しながら取り組むことにより協働意識を高めるとともに、一人ひとりの資質能力を高める。また、「防災教育」への意欲を向上させる。

具体的取組

- 1 OJTの重要性・必要性について理解する。
 - ・「OJT推進の手引き」を使った研修
 - ・キャリアステージに応じたOJTの必要性
 - ・学校行事を通したOJTの効果
- 2 OJTの具体的方法について検討する。（意図的・計画的OJT）
 - ・防災教育を通したOJT（気仙沼市立大島小学校との交流）
 - ・「絆コンサート」の企画・立案・運営を通したOJT
- 3 OJTの進捗状況を報告・連絡・相談する。（継続的・組織的OJT）
 - (1) 意欲のある集団をつくり、育てる
 - (2) 職員会議を通して集団を育てる
 - (3) 協働した取組により集団を育てる
 - (4) 各担当（キーパーソン）により、相互に啓発する集団をつくり、育てる
 - (5) 新しい課題を示し、集団を育てる
- 4 OJTの実践について情報交換を行う。（実践・振り返り）
 - ・実践についてまとめ、記録に残す。
 - ・「OJT実施に際してのチェックポイント」の活用
 - ・次年度計画の立案

取組の成果

- 「防災教育」を意図した学校行事を行うことにより、全教職員の防災教育への意識が高まった。教職員の意欲が児童へ伝わることを通して、新たな交流への意欲が生まれ、学校全体で防災教育が進められるようになった。
- 一つの行事において、全員がOJTを強く意識しながら取り組んだことにより協働意識が高まるとともに、他の行事の取組に際しても同様の効果が期待できる。また、新たな分掌を行うことにより個々の資質能力がより高まった。

参考資料

資料① 防災教育(気仙沼市立大島小学校との交流)を通じたOJT分担表

○ 大島小学校との交流分担 (OJT手法による「絆を実感できる」学校づくり)

分 担	担 当	内 容
総 括	校 長	・総括
OJT担当	教 頭	・OJT手法による「防災教育」の推進、地域への発信
日程調整	教務主任	・児童集会等の調整
児童会	研修主任 二年研	・児童会活動への意識づけ ・大島小学校との交流 (DVD メッセージ、作文、絵画等)
防災教育	生指主任	・支え合う心の育成
学級活動	各担任	・各学級における支援 ・「命の尊さ」を実感する学級活動
ICT	視聴覚主任	・DVD メッセージ等の作成
広報	養護教諭	・各メディアへの紹介 (Fax 等)
会計	主 事	・経理

メンターは事前にアポをとっておくことも大切

事前に計画し、意図的・計画的・継続的に

教職員の意欲が児童へも伝わる

大島小学校との交流の実際
(H24. 7. 18)
DVDメッセージづくり
広報担当の情報提供により、新聞社が取材のため来校、児童の歌った歌の作曲をしたマウンテンマウスも応援にかけつけた。



資料② 「絆コンサート」を通じたOJT分担表

分 担	担 当		内 容
	H 2 3	H 2 4	
総 括	校 長		・総括
OJT担当	教 頭		・OJT手法による「絆コンサート」の推進、地域への発信
交渉 (マウマウ)	教務主(A)	教務主(B)	・マウンテンマウスとの交渉 (日時、時間、内容、準備物等) ・市教委 生涯学習課との連絡・報告
交渉 (毛利次郎)	研修主(B)	生指主(E)	・毛利次郎との交渉 (日時、時間、内容、準備物等)

・メンバーの参画意識を高めるため、形成的評価を行う。
・PDCAを常に意識することが大切。

・2年間継続することで、OJTの必要性が再認識される。
・2年目は新たな担当に挑戦し、資質能力を高める。

資料③ チェックリスト

OJT推進のためのチェックリスト10項目		月/日	月/日	月/日
1	OJTの必要性を理解している。			
2	「いつ」「どのような方法で」OJTを実施するかを意識している。			
3	意図的・計画的・継続的・組織的にOJTを推進している。			
4	適切な場面で、指導・助言や支援を得ている。			
5	他のメンバーと連絡・調整を行っている。			
6	キーパーソンと連携し、またはキーパーソンになろうとしている。			
7	OJTの成果を子どもの教育に反映させようとしている。			
8	OJT担当者で報告・連絡・相談を行っている。			
9	新しい課題をつかもうとしている。			
10	組織的な学校運営のために協働実践している。			

上の交流
内容、時間配分等
の充実
への紹介 (Fax 等)
育担当
広報活動

取組の趣旨

- 児童の確かな学力を育むためには、学力向上プランを共通理解し、PDCAサイクルに基づいた組織的で計画的な取組を充実させることが大切である。
- 学力向上プラン検討会議で、児童の実態を踏まえ課題解決の方法をそれぞれの教職員の日常の指導の中から引き出し、数値化した具体目標に向けて教職員の協働実践を促すように働きかけることで相互に高め合う取組を進める。

具体的取組

- (1) 教務主任を中心に、全教職員による学力向上プランの検討
 - ・各学年の学習課題を洗い出すとともに、これまでの各担任の学力向上のための取組の事例を出し合う。
 - ・出された取組の事例からアイデアを出し合い、全校体制で協働実践する取組を設定する。
 - ・取組に対する成果や課題を明らかにするために、児童や保護者のアンケート結果に基づいた具体的な目標を共通理解する。
 - ・日々の協働実践の交流とともに、学期毎に全教員で学力向上プランの成果や課題、やまぐち学習支援プログラムの評価問題の結果について話し合う。
- (2) 研修主任を中心にわかる授業づくり
 - ・学力向上プランで出てきた課題解決のための授業研究にする。
 - ・“個人差への対応”など前の授業で出てきた課題を次の授業で検証する。
 - ・児童による授業評価、教職員相互の授業評価シート、KJ法を活用し、児童の視点から自分たちの授業を振り返り、改善を進める。
- (3) 生活習慣・学習習慣づくり
 - ・家庭学習の手引きの配布とともに、家庭学習ふりかえりカードに取り組み、全校児童の家庭学習の質と量の向上を図る。
 - ・養護教諭を中心に、姿勢の指導とメディアコントロールに全校体制で取り組む。

取組の成果

- 学力向上プランに対する教職員の意識改革が図られ、自己目標シートの学習指導の記述と学力向上プランとを連動させる教職員が増えた。
- 授業研究後の協議で出てきた課題を次の授業研究の中で、解決を試みるという意識が生まれ、PDCAサイクルに基づく授業改善の取組に進みつつある。